

令和 8 年度青森市学校給食運営懇談会概要

- 1 開催日時 令和 8 年 7 月 2 8 日(火曜日) 1 8 : 0 0 ~ 1 9 : 0 0
- 2 開催場所 青森市教育研修センター 4 階 第 2 研修室
- 3 出席者 工藤裕司 青森市教育委員会教育長
泉宏明 青森市教育委員会事務局教育部長
齋藤美鈴 青森市教育委員
小野実穂 青森市 P T A 連合会
今さおり 青森市 P T A 連合会
相馬克典 青森市小学校長会会長
黒丸健吾 青森市中学校長会会長
相馬佳奈 青森県学校栄養士協議会（全 8 名）

4 主な意見

【学校給食の実施状況について】事務局説明

- ・本市では 3 つの給食センター（小学校給食センター、中学校給食センター、浪岡学校給食センター）で給食を調理し提供しているが、このうち浪岡学校給食センターについては、施設の耐用年数を経過し、老朽化が著しい状況となっていることから、今年度末をもって閉場し、小・中学校給食センターに業務を集約することとしている。
- ・本年 5 月 1 日現在、市内小中学校 60 校において、教職員等を含め 18,221 人を対象に給食を提供している。

【給食に要する費用について】事務局説明

- ・令和 4 年 10 月から、保護者負担の軽減を図るため、青森市が学校給食費の全額公費負担を実施している。
- ・給食食材の価格が値上がりしており、栄養価を確保するために、令和 8 年度 4 月から給食一食当たりの金額を小学校 348 円、中学校 428 円に増額改定した。
- ・給食材料の価格の状況について、消費者物価指数（青森市・食料）は現在も上昇傾向にある。安定的に供給されていたカレールウなど、一部の食材で価格が上昇している。米飯価格は令和 6 年度から急激に上昇を続けている。

【食育について】事務局説明

- ・学校給食課の取組としては、特別活動の時間等に栄養教諭・学校栄養職員を派遣している食に関する指導を実施するほか、「食育の日」学校給食体験会やおやこ食育セミナーの開催、「こんだてのおしらせ」「給食だより」配付などで、家庭に向けた食に関する情報提供を行っていく。
- ・地産地消の取組では、ご飯は青森市産米まっしぐらを 100%使用し、令和 7 年 1 1 月のふるさと産品給食の日には、県産牛である八甲田牛を使用した給食を提供

した。

- ・ 新学期初め、夏季及び冬季休業明けは、「学校給食元気モリモリウイーク」として、アンケートを参考に児童生徒が好む献立やデザートを取り入れたりするなど、より魅力があり、楽しみにしてもらえるような給食となるよう工夫している。
- ・ 給食代替食品の備蓄について、現在は各センターにさば照焼き缶、パイン缶などを保管しているが、地震等により給食調理施設に不具合が発生する場合や、異常気象により配送ルートが通行止めとなる場合など、学校給食の提供に不可抗力の事案が生じた場合に対応するため、各学校に給食代替食品（非常用レトルトシチュー）を1回分備蓄することとしている。
- ・ 令和8年度は災害時の給食を中学校1校で先行して提供し、課題等を洗い出すこととしたい。
- ・ 本日は、試食としてアルファ化米と非常用レトルトシチューを準備したので食べてほしい。

【委員からの意見】

- ・ 給食は、不登校対策でも登校のきっかけとして活躍している。元気モリモリウイークも子どもたちの励みになっている。
 - ・ 中学校で先行して実施してもらえるのがありがたい。この機会に生徒にも防災について考えてほしい。報道にあったように八戸市では給食センターが壊れて、給食を提供できないことがあったので、学校に備蓄があるのはありがたい。先行して実施して使用する際の課題などを洗い出せばよいと思う。
 - ・ 学校での備蓄は大事だと思った。青森市だと大雪が原因ということも考えられる。備蓄予定の非常用レトルトシチューは、1年生だと一人で封を開けられるのか心配。いろいろ考えなければならないこともあると思う。
 - ・ 学校の備蓄は1日分とのことだが、1日で済むのか？というところもある。費用面でも市の負担は大きいと思う。災害時には学校は避難所になっているので、一般の人はどうするのか、対応が大変なのではないかと思った。
 - ・ 小学校は市民の避難場所でもあるので、給食と災害備蓄とそれぞれあると思う。福祉施設で仕事をしていて、施設でも炊き出し訓練をしているが、とにかく水がないと厳しい。地域との連携があるので、給食が提供できなくてもなんとかなると思うが1日分でもあればいいと思う。
- ➡地域の人が避難してきた場合は、避難所に設置されている防災倉庫のものを使用する。以前は防災倉庫のものを学校給食に何かあった場合に使用することを想定していたが、防災備蓄数の見直しがあり、全校児童生徒分の数がないところもあるため、学校給食で独自に備蓄することとした。
- ➡水が大切とのことだが、学校で断水があった場合はトイレが使用できず、学校を運営できないため早く帰宅させることになると思われる。

- ・ 初めて参加したが、給食はこういうことも考えているのかと思った。1 日分はうれしいが不安な部分もある。もう少しあれば安心できるのかなと思った。
- ・ 非常用レトルトシチューを備蓄し、今後は年 1 回ローリングしていくので、使用献立や予算など検討が必要。小学 1 年生が封を一人で開けるのが難しいかもしれないので、そこも検討が必要かと思う。
- ・ 子どもたちは家庭科で災害に対する勉強をする。学校で学んでいるので家庭に帰ってからも「防災備蓄は必要なのではないか？」と言う子どももいると思う。防災に関しても学校、家庭と連携していければよいと思う。
- ・ 給食費は適宜、財政課と協議して値上げをしている。今年度はいくらか落ち着いているが令和 6 年度は 3 か月ごとに値上げが必要になり大変だった。
- ・ 世の中の値段が上がってきているので仕方がないが、栄養価、質を落とさずに給食を作ってくれてありがたいと思う。中学生くらいになると、朝食は何も食べなかったり、菓子パンしか食べなかったりする生徒もいる。本当に給食で命をつないでいる子どももいるので、なんとか今まで通り継続して欲しい。
- ・ 教職員も給食を楽しみにしている。ある子どもは、朝提出物を出してすぐ帰宅していたが、給食の献立を見て、食べたいときはお昼までいて帰宅している。
- ・ 今後物価が下がるということはないと思う。親としては一部負担してもいいので子どもたちにちゃんとしたものを食べさせてほしい。給食費が無料だからと軽んじている保護者もいるのではないだろうか。給食費をちゃんと支払っているのに、残さずちゃんと食べてねと言えるのではないかと思う。
- ・ 物価が上がってきており、中学校でカレーライスが提供される日は 1 食あたりの目安額よりオーバーしている。
- ・ 食に関する指導では、ありがたいことに年々依頼の件数は増えている。昨年度から栄養職員が 1 人減となり、市内 9 人の栄養教諭及び栄養職員で指導に当たっている。普段はセンター勤務なので指導に行き受配校の児童生徒の生の声を聴くことができるのでとてもうれしい。中学 3 年生は卒業時に「9 年間給食ありがとう」と自分たちで給食のランキングをつけたメッセージをくれたりもするので、参考にして元気モリモリウイークの献立を決めている。
➡教育委員会としては引き続き県に栄養教諭増員の希望を出している。
- ・ 食べることは生きること、人は最後まで食事をする。周りの大人がちゃんと食べることが子どもたちへの食育になると思う。

【試食した非常用レトルトシチューについて】

- ・ 美味しかった。
- ・ 普段の夕ご飯で出せば「え？」となるかもしれないが、緊急時には十分だと思う。